

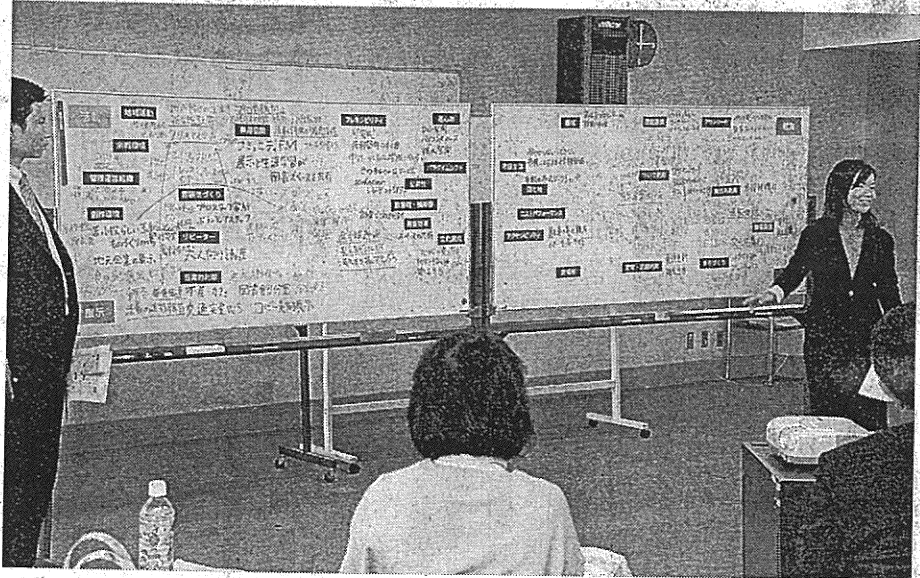
# 基本構想具体化へ

## 市民ホール建設検討委

### 活動、展示などで意見交換

苦小牧市民会館の複合施設への建て替えを話し合う市民ホール(仮称)建設検討委員会の7回目の会合が16日、苦小牧市役所で開かれた。委員はこれまでの議論を振り返りながら、基本構想の具体的な検討作業に入った。

大学教授や舞台技術の専門



市民ホールの活用方法などで意見を交わす検討委員会メンバーと市職員

家、公募の市民など委員5人の他、関連部署の職員も出席。これまでの先進地の事例報告や統合を検討中の文化会館や労働福祉センターなどの周辺

施設の機能などの議論を背景に、北海道大学大学院工学研究の野村理恵助教が進行役になり、活動や展示、鑑賞、窓口の四つの施設機能に分

け、効果を上げるアイデアを話し合った。

委員が「この施設に行けば文化のことは何でも分かると思ってもらえることが大事」と説くと、別の委員が文化活動に特化したコンシェルジュ(総合案内係)の配置を提案。リピーター獲得に向け、「何かのついでに利用できる仕組みを」「人気の高い食に注目した取り組みは」などと委員や市職員からも案が出た。従来の施設に不足していた視点として「屋内に子どもが声を出して遊べる空間があると家族連れは来やすい」「ベットと一緒に利用できる空間を」などの意見も。予算への配慮も指摘されたが、「経費を抑えて使われない施設にしたら意味がない」と、アイデア出しの優先を確認した。

北大大学院工学研究教授の森傑委員長は「基本構想に関わる目標の議論ができ、何をしたいのかが明確になったと思う」と手こえを語った。